

紀要

第 19 号

論 文

- 専門教科（物理）と日本語のコラボレーション授業の改善と評価
～3年間の授業を振り返って～
太田 亨・佐藤 尚子・藤田 清士 1
- 日本語母語話者コーパスにおける「わけにはいかない」の用法
～従来の日本語教育文法との比較から～
小嶋 香織・松田真希子 11
- コーパスから見た日本語母語話者と日本語学習者における「～ておく（とく）」の使用状況
鈴木 美奈・松田真希子 23
- 韓国中等教育日本語教師のピリーフの変化に関する研究
- 因子分析による縦断的变化の考察 -
星 摩美 37
- 外国人留学生と日本人学生へのアカデミック・スキル指導についての考察
～演習型授業におけるレジユメの分析から～
深川 美帆・深澤のそみ・札幌 寛子・濱田 美和 57
- 初級日本語教科書と予備教育用物理教科書の使役表現の比較
マイサラ ビンティ カマル・松田真希子 69
- 会話場面の丁寧度の測定の試み ～談話要素に焦点をあてて～
峯 正志・梁 雨馨 79

実践報告

- 留学生対象のフィールドワーク教育プログラムの開発：金沢の生物文化多様性の認識向上に向けて
アイーダ・ママードヴァ・飯田 義彦 89
- 日本で英語で授業を教えることに関する一考察：米国式教授法の課題と課題への対処法
伊藤 大将 107
- 理工系大学院における留学生組織作り
～金沢大学大学院自然科学研究科留学生コミッティー～
岸田 由美 123

金沢大学国際機構留学生センター 『留学生センター紀要』投稿規程

1. 本誌への投稿は金沢大学の教員（非常勤講師を含む）に限るが、共著者にそれ以外の者を含むことができる。ただし、国際機構留学生センター（以下、「センター」と略す）が依頼する原稿についてはこの限りではない。
2. 投稿できる原稿のテーマは次のとおりとする。
 - (1) 留学生教育に関するもの
 - (2) 異文化理解教育に関するもの
 - (3) 語学、語学教育に関するもの
 - (4) その他、編集委員会が認めるもの
3. 投稿原稿の種類は次のとおりとする。
 - (1) 学術論文
 - (2) 実践報告
 - (3) 調査報告
4. 投稿原稿は未発表のものに限る。
5. 投稿原稿の内容・記載については、第三者の著作権を侵害しないこと、研究手法において人権を侵害しないこと、法令を遵守することを確認すること。
6. 本誌は原則として毎年3月に発行する。発行までの日程は下記のとおりとする。
 - (1) 投稿申込み締切り 10月末日
 - (2) 原稿提出締切り 1月中旬
 - (3) 採用可否通知 1月末日
 - (4) 校 正 2月初旬～中旬
 - (5) 発 行 3月中
7. 投稿者は、投稿原稿の著作権がセンターに帰属することに同意するものとする。
8. 投稿者は、完成原稿とその電子ファイルをセンターに提出する。
(bulletin@isc.ge.kanazawa-u.ac.jp)
9. 出版に要する費用はセンターで負担するが、別刷り増刷を希望する場合は著者負担とする。
10. センターは編集委員会を設置し、原稿の採否及び編集と校正に係る。

この規程は第16号から適用する。

金沢大学国際機構留学生センター 『留学生センター紀要』執筆要項

1. 原稿はA4判用紙にワープロで横書きとし、ページ当たり40文字×36行の書式で、最大15ページまでとする（注、参考文献等を含む）。提出用の電子ファイルはMicrosoft Word フォーマットで保存すること。
2. 原稿の使用言語は日本語か英語とする。提出前に母語話者によるチェックを受けるなどして完全原稿を提出すること。
3. 原稿作成にあたっては次のことを遵守すること。
 - (1) 原稿には日本語及び英語で、タイトル、著者名、所属、要旨（日本語300字程度、英語150語程度）を添えること。
 - (2) 章、節、項の区分にはI、1、1)の順に用いること。
 - (3) 本文は明朝体10.5ポイント、章区分及び章タイトルはゴシック体12ポイント、原稿タイトルはゴシック体14ポイント、著者名と所属はゴシック体9ポイントのフォントを用いること。
 - (4) 注は後注（文末注）とし、執筆者の所属も注に含めること。
 - (5) 参考文献、図表番号、引用方法の様式については、当該分野の標準形式に従うこと。
4. 著者校正は第2校までとし、校正段階における原稿の修正は字句訂正に限定する。

この要項は第16号から適用する。

Research Bulletin

Vol.19

CONTENTS

(Articles)

- The improvement and evaluation of a collaborative class that combines physics and Japanese language
-Reflecting upon three years of classes-
Akira Ota, Naoko Sato and Kiyoshi Fujita 1
- A corpus-based analysis of the Japanese phrase “Wakeniwaikanai”
-Comparative with traditional grammar for Japanese Language Training-
Kaori Kojima and Makiko Matsuda 11
- How *teoku(toku)* are used in Japanese text corpora?:
a comparison between Japanese native speakers and Japanese non-native speakers.
Mina Suzuki and Makiko Matsuda 23
- Study on the change of Korean secondary school Japanese language teachers’ belief
- Observation of a longitudinal change by factor analysis-
Mami Hoshi 37
- Academic Skills for International and Japanese Students:
From an analysis of seminar resumes
Miho Fukagawa, Nozomi Fukasawa, Hiroko Fudano and Miwa Hamada 57
- A comparative study between Beginner’s Japanese textbook and Physics textbook used in preparatory education on causative expression
Maisarah Binti Kamal and Makiko Matsuda 69
- An attempt to develop a new method for measuring the degree of politeness: Focusing on the number of pre-sequences
Masashi Mine and Liang Yuxin 79

(Reports)

- Development of educational fieldwork activities for the International Students:
Case of awareness raising in biocultural diversity of Kanazawa City
Mammadova Aida and Yoshihiko Iida 89
- Teaching a Class in English in Japan: Lessons from Putting an American Style of Teaching into Practice
Daisuke Ito 107
- Establishment of International Student Committee at the Graduate School of Natural Science and Technology, Kanazawa University
Yumi Kishida 123

International Student Center
Kanazawa University

2016.3